

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

教育目標	「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～			
教育方針	1 学力の向上を図る	2 希望進路の実現を図る	3 学校行事・部活動の充実を図る	4 基本的な生活習慣の確立を図る

## 2 中期的目標

1 教員の授業力の強化と「確かな学力」の育成
(1) 授業第一主義を確立する。(授業内容の充実 授業時数の確保 授業規律の確立 シラバスの達成 )
(2) 他校の先進事例視察や校外での研修へ積極的に参加。教員相互の授業参観・研究授業を活発化し、授業内容・指導方法を改善する。
(3) 生徒の自習力や学習意欲の向上及び整備された教育環境の積極的活用により興味・関心を持たせる。 ※生徒向け授業アンケートにおける「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答(平成 27 年度 77%)を毎年 3%ずつ引上げ平成 30 年度には 86%をめざす。 生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業はわかりやすい」の肯定的回答(平成 27 年度 66%)を毎年 2%ずつ引上げ平成 30 年度には 72%をめざす。
2 生徒が希望する進路の実現のため、学習指導と進路指導の充実
(1) 3年間を見通した進路指導計画によりキャリア教育を充実させ、大学進学等の目標の実現及び、さらに高い目標の設定とその実現をめざす。
(2) 校外での研修へ積極的に参加や教育産業による学力分析システムの活用により、進学講習を充実させる。
(3) 進路指導室・進路資料の整備・充実を図る。 ※3年生向け学習指導・進路指導満足度調査における「適正な進路指導により意欲的に取組めたか」の肯定的回答(平成 27 年度 80%)を毎年 2%ずつ引上げ平成 30 年度には 86%をめざす。 ※国公立大学及び関西 8 大学(関学・関大・同志社・立命・京産・近大・甲南・龍谷)への現役進学者数(平成 27 年度 108 名)を平成 28 年度に 115 名に引き上げ、あと 2 年で 10%ずつ引上げ平成 30 年度には 135 名をめざす。
3 基本的な生活習慣の改善・定着と学校行事、部活動の活性化
(1) 基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、社会のルールやマナーを身につけさせ、規範意識を向上させる。 ア 「学力向上と学校生活の充実はよき生活習慣から」全教職員で生徒の基本的な生活習慣(あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等)の改善・定着に取り組む。 イ 遅刻指導を強化し、年間遅刻数の前年度減をめざす。 ※年間遅刻回数(平成 27 年度 2693 回)を前年度比減少させる。生徒数が増加する中、平成 30 年度にも 2700 回を下回る。 ウ 教育相談体制及び生徒支援体制の充実を図る。 エ 懇談のこまめな実施や積極的な情報の発信により、保護者との信頼関係を構築し、共通理解の形成を図る。 ※保護者向け学校教育自己診断の「保護者との意思疎通を図っている」の肯定的回答(平成 27 年度 70%)を毎年 2%ずつ引上げ平成 30 年度には 76%めざし情報発信等を行う。
(2) 学校行事、部活動の積極的な参加をととして、生徒の自主性や社会性を育成する。 ア 部活動加入率(平成 27 年度 87%)の維持向上と、活性化を図る。
4 地域に開かれた学校づくり
(1) 刀根山の求める生徒像や刀根山の魅力など、本校の教育活動の内容について、積極的に情報を発信する。 ア 学校ホームページの充実を図り、定期的に更新する。(毎週複数回の更新をめざす) イ 中学校や学習塾などへの訪問活動を充実させる。 ウ 授業公開・学校見学会・体験入学会の一層の充実を図る。 ※オープンスクール及び学校説明会参加者(平成 27 年度生徒 917 名)を平成 30 年度に 950 名に引き上げる。
(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。 ア 授業や部活動、生徒会活動などをととして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。 ※東日本大震災復興支援ボランティアを継続して実施する。特に、豊中市の主催するボランティアバスに引き続き参加する。 ※裏山の活用について関する生徒アンケートを実施し、「裏山を有効に活用できた」の回答を平成 30 年度に 80%とする。
5 ICT を活用した校務の効率化
(1) 校務処理システムを積極的に活用し、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有し、生徒と向かい合う時間を確保する。
(2) 労働安全衛生体制を充実する。
6 学校経営推進費事業の活用
(1) 平成 28 年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。 ア 地域や大学と連携し、裏山を活用したキャリア教育を推進することにより、生徒の「志」を高め、勤労観・職業観を育成する。 イ 裏山に生息する動植物に直接触れ、大学教授等の専門家から指導を受けることにより、生徒の学習に対する興味・関心を高める。 ウ 裏山の資源を活用し、これまで進めてきた環境教育や防災教育をさらに推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<b>【学校生活全般】</b> ・保護者の「子どもは、喜んで学校に通っている」は 86%、生徒の「学校に行くのが楽しい」は 79%で昨年と同様の結果であった。 ・教職員の「生徒や保護者の要望によく応えている」は 91%で昨年より 2 ポイント改善した。 ・保護者の「学校は子どもの学校生活について保護者との意思疎通を図っている」が 70%で昨年と同様の結果であった。 ★ほとんどの項目で横ばい、もしくは改善されている中、保護者の「子ど	第 1 回(6 月 27 日) ○地域連携について ・地域の「子ども教室」で刀根山高生にも子供たちに教えて欲しい。例えば「理科実験教室」、家庭科教室を使った実習、裏山を活用した取組みなど。 ・「地域あげた防災訓練」で刀根山高生に何が出来るかを考えて欲しい。裏山を防災拠点とするならば、地域住民と一緒に訓練が必要。 ・毎金曜日に硬式野球部が蛍池駅から刀根山高校まで空き缶拾いをやってくれて、非常に感謝している。

府立刀根山高等学校

<p>ものことを学校に気軽に相談できる」が 57%で 2 ポイント減少、「子どもの進路について学校に気軽に相談できる」が 55%で 5 ポイント減少しており、保護者との面談の機会の設定や対応の仕方などを検証・改善し、来年度に生かさなければならない。</p> <p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「授業は、分かりやすい」は 64%で 2 ポイント減少し、保護者の「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」は 57%で 1 ポイント向上した。</li> <li>生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が 52%で 3 ポイント向上し、教員側のアクティブ・ラーニングの意識は高まってきている。</li> </ul> <p>★教職員の「各教科において基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている」が 97%と 10 ポイントも向上しているにもかかわらず、生徒の授業に関する数値が減少し、大きく乖離している点は大きな課題であり、教員同士の相互参観や研究授業をはじめとした研修によって改善する必要がある。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生活指導の方針に納得（共感）できる」について、生徒 69%、保護者 87%で各々 4 ポイント、2 ポイント改善しているが、両者の間に 20 ポイント近い差があり、特に生徒には十分納得させる必要がある。</li> <li>生徒の「人権の大切さを学ぶ機会がある」は 75%で 15 ポイント改善したが、1・2 年生では性的マイノリティーの方に来ていただくとともに、3 年生では東北大震災について語っていただくなど、より現実的なアプローチができた結果と分析しており、来年度も踏襲していきたい。</li> </ul> <p>★生徒の主体的な活動については、改善の余地が大いにあると分析しており、生徒会活動などの活性化をめざしたい。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「校内研修制度が確立し、計画的に研修が実施されている」が 88%で昨年より 18 ポイント（3 年前と比べると 34 ポイント）向上しており、実施については定着したものと認識しているが、質については、さらに研究し、より効果的なものにしていきたい。</li> <li>「校長は学校の理念や学校運営について明確な考えを持っている」が 93%で 32 ポイント向上し、教職員には経営方針が一定理解されている。</li> </ul> <p>★「各分掌や各学年の連携が円滑であり効率よく機能している」が 52%で 9 ポイント減少し、この点が本校の最大の課題と認識している。来年度は組織としての在り方を根本的に見つめなおし、各分野が円滑に連携できるよう働きかけていく。</p>	<p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千里川付近で信号無視をする自転車通学者が時々いるので注意してもらいたい。</li> <li>7 月からの条例で自転車保険加入が義務化になるが、どのように対応していますか。</li> </ul> <p>○有権者教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選挙権が 18 歳からとなったが、これに関する教育はどうなっていますか。</li> </ul> <p>第 2 回（11 月 7 日）</p> <p>○生徒指導、進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで「自宅学習ほとんどなし」という生徒は、1、2 回目とも同一の生徒たちですか。また、自宅での過ごし方は TV とスマホ・携帯ですか。</li> <li>生徒がいろいろな生活課題を抱えていることと家庭学習時間が短いことや進路目標を持ってない等とはリンクしていますか。</li> <li>今朝、自家用車に乗っていて、思わず自転車通学の生徒にクラクションを鳴らしました。朝ギリギリで登校しようとする生徒が多々いるのも問題だと思います。法律が変わって、自転車も責任をより大きく問われる時代です。より強く自覚を高めてほしい。</li> <li>中学では、高校受験が近づくとも目標を失う生徒が若干出るが、高校ではどうか。またどのような指導をされているか。</li> </ul> <p>○授業改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業を改善してほしい」と生徒から言われている教員は分かっているのでしょうか。</li> </ul> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少しずつ地域での刀根山高校、裏山の存在感が大きくなっています。感謝しています。府立高校なので、当初は「敷居が高い」と思っていました。でもお願いしてみたら意外と協力的に地域連携を進めていただき、地域としては助かっている。</li> </ul> <p>第 3 回（1 月 23 日）</p> <p>○進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Critical Thinking の導入は非常に有意義だと思う。</li> </ul> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「刀根山サミット」の議題として「文化系クラブ」の部室を増やせるか、というやり取りの中で「公民館」を借りるという発想が見られたのが印象的であった。</li> </ul> <p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車の乗車マナーという点で、地元警察の協力も得て指導してくれていることは評価できる。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
育成 1 教員の授業力を強化と「確かな学力」の	<p>(1) 教員の授業力の強化、生徒の学力の向上</p> <p>ア 教員相互の授業参観・研究授業の推進</p> <p>イ 公開授業および授業アンケートの活用</p> <p>ウ 授業規律の確立</p> <p>(3) 生徒の学習意欲の向上</p> <p>エ 大学等との連携</p>	<p>ア・授業公開研修（6 月・11 月）を中心に、全教員が年 2 回以上の授業参観を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種授業研修への参加により、先進的な授業実践を学ぶ。</li> <li>各教科でのシラバスの達成及び英語「CAN-DO リスト」による 4 技能の育成。</li> </ul> <p>イ・ICT を授業に活用するための実践に資する研修を行う。</p> <p>イ・公開授業の対象者及び期間の拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート（2 回）を活用し授業改善を推進する。</li> <li>経験年数の少ない教員に対して、経験豊かな教員による個別研修及び他校教員との合同研修を実施する。</li> </ul> <p>ウ・メロディチャイムでの着席、教材準備、机上整理の徹底を図る。</p> <p>エ・大学等との連携により裏山を「学習フィールド」として活用する。</p>	<p>ア・全教員による年間 2 回以上の授業参観実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT を活用した授業の教員実施率 70%以上（27 年度：66%）</li> <li>ICT 研修の実施回数 2 回</li> </ul> <p>イ・授業アンケート「授業に興味関心」肯定的回答 80%以上（27 年度：77%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の実施及び充実（27 年度 2 回）</li> </ul> <p>ウ・授業アンケート「集中して授業を聞く」肯定的回答の向上（27 年度：85%）</p> <p>エ・授業アンケート「授業に興味関心」肯定的回答 80%以上（27 年度：77%）</p>	<p>ア・授業見学をしなかった教員が 14 名いる。次年度は全員が見学するよう趣旨を徹底する。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT を授業に活用した教員は 83%で 17 ポイント向上。さらなる活用とクオリティの改善をめざす。(◎)</li> <li>電子黒板の活用を含めた ICT 研修を 2 回実施した。(○)</li> </ul> <p>イ・授業アンケート「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答 75% [－2 ポイント]。生徒のニーズと実態を正確に把握し、ICT 機器の活用などにより、授業にさらなる工夫をするための研修を実施するとともに自己研鑽を促す。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 月と 11 月に授業改善のための研究授業と全教員を対象とした研究協議を開催し、グループに分かれて授業改善のポイントを活発に議論した。(○)</li> </ul> <p>ウ・授業アンケート「授業中、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる」の肯定的な回答 85% [±0 ポイント]。授業規律を高め、各授業での目標を明確化するよう、学校全体で組織的に意識できるよう働きかける。(△)</p> <p>エ・授業アンケート「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答 75% [－2 ポイント]。(△)</p>

## 府立刀根山高等学校

2 生徒が希望する進路の実現のため、 学習指導と進路指導の充実	(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 進路指導部と学年が連携した進路指導の推進 イ 先進事例に学び進学講習の充実 ウ 進路意識の向上 エ 進路情報の発信	ア・生徒の希望する進路を実現するため、進路指導部と学年が連携して進路指導を推進する。 ・進路指導部が主催する学年への研修を実施する。 ・進路情報の分析結果の校内共有を図る。 イ・進学希望者向け講習の実施を推進する。 ・夏期休業中の講習は早期に計画・準備する。 ・自習室の整備及び大学生インターンシップを活用し、生徒の自学自習を支援する。 ウ・進路ガイダンス、進路講演会、校内模擬試験、大学見学会、オープンキャンパス参加などを通じて進路意識の向上を図る。 ・希望進路の実現にむけて、センター試験受験者を増やし、最後まで頑張るよう指導する。 ・裏山を活用したキャリア観の育成 エ・保護者進路講演会の土曜日開催や、進路通信の活用による、進路情報の積極的な発信に努める。	ア・学習・進路指導の卒業前調査(3年生)「進路指導を受けて自己変革があった」の肯定的回答の向上(27年度:68%) イ・進学希望者向け講習の実施状況 ウ・学習・進路指導の卒業前調査(3年生)の「進路実現のための自分の課題が見えた」等の回答の向上(27年度:70%) ・国公立関西8大学入学者115名(27年度:108名) ・学校教育自己診断「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」の向上(27年度:82%) エ・進路講演会の開催回数 進路通信の定期的な発行	ア・3年生「進路指導を受けて自己変革があった」67%[-1ポイント]。生徒が主体的に進路について考える姿勢を備えた上で進路指導を行う必要があり、そのような取組みを進めていく。(△) イ・47%の教員が進学者向けの講習を放課後や休日、長期休業中に実施。実施した教員の割合は9ポイント減少したが、より多くの教員が関わっていくよう組織的な講習を計画する。(△) ・大阪大学の学生による自習支援、外部講師による英語ガイダンス講習を実施。(○) ウ・3年生「進路実現のための自分の課題が見えた」等67%[-3ポイント]。高い目標を設定させ、行ける大学ではなく、行きたい大学に向け、理想と現実の差を具体的に認識させ、その課題の解決に向けた取組みを実践する。(△) ・学校教育自己診断「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」82%[±0]。進路講話、ガイダンス、講演会、大学・専門学校の模擬授業、模擬試験などを年間通して計画的に実施しているが、その内容や時期について検討し再構築する。(△) エ・進路通信は例年通り発行。保護者説明会を土曜日に4回実施した。(○)
3 基本的な生活習慣の改善・定着と 学校行事、部活動の活性化	(1) 全校体制による生徒指導の推進 ア 規範意識の向上 イ 遅刻指導の継続 ウ 人権教育の推進 エ 生徒支援体制の充実 (2) 学校行事および部活動の充実 オ 体育大会や文化祭などの学校行事の充実 カ 運動部・文化部の部活動の充実	ア・引き続き学校全体で生徒指導に取り組み、課題の共通認識を図る。 ・交通マナー(自転車・歩行者)の向上、「チャイム着席」などを継続して指導する。 ・地域の「とねやまあいさつ運動」と連動した取り組みを展開し、あいさつ向上をめざす。 イ・遅刻指導を継続して実施する。 ウ・人権教育推進委員会での人権教育の推進と、必要に応じていじめ防止委員会を開催。いじめには、迅速に対応する。 エ・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 オ・生徒会、PTA及び地域とも連携し、学校行事のさらなる充実に取り組み。 カ・各部の活動状況・試合結果などをきめ細かくホームページに掲載するなど、活動状況の発信にも努め、加入率の向上を図る。	ア・生徒の意識向上 自己診断「集団生活のルールを守っている」の肯定的回答の向上(27年度:79%) イ・遅刻数の前年度比減少(27年度:2,693名) ウ・人権教育担当者会議の毎週の開催 エ・校内及び校外機関等との連携状況 オ・自己診断「文化祭や体育祭は、活発で楽しい」の肯定的回答の向上(27年度:83%) カ・HP「刀根山トピックス」のこまめな発行(27年度:17回) ・部活動加入率87%の向上	ア・学校教育自己診断「本校生徒は、集団生活のルールを守っている」81%[+2ポイント]。(○) イ・クラス数が増えたとは言え、12月までの遅刻者数は1931名(27年度1819名比2%増加)であり、改めて遅刻指導の在り方を考察する。(△) ウ・学年ごとの人権教育に対する取組みは効果的であるが学校全体としての組織的な体制は改善の余地がある。(△) エ・個別の案件については、教育センター、スクールカウンセラー、医療機関、中学校とも連携を取りながら対応した。(○) オ・学校教育自己診断「文化祭や体育祭は、活発で楽しい」84%[+1ポイント]。(○) カ・各部の活動状況・試合結果などをホームページの「What's New?」(14回)や「校長ブログ」(5回)で紹介。(○) ・部活加入率85%(△)
4 地域に開かれた学校づくり	(1) 学校情報の発信 ア ホームページ・保護者向けメールマガジンの充実 イ 学校説明会・体験入学会等の充実 (2) 地域との交流・連携の推進 ウ 地域の学校や保育園などとの連携	ア・ホームページの充実及び保護者向けメールマガジンの活用により、学校情報をさらに積極的に発信する。 イ・中学校や学習塾への訪問を強化し、刀根山の求める生徒像や刀根山の魅力を発信する。 ・学校説明会や体験入学の内容を充実させる。 ウ・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。 ・小学生や中学生に出前授業等を実施する。 ・地域の学校や福祉施設等との連携事業及び自治会等と連携したあいさつ運動や清掃活動、防災行事などに取り組み。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。	ア・ホームページの更新回数・閲覧者数、メールマガジンの発信回数増(27年度HP更新62回、閲覧者49,861名、メルマガ49回) 学校協議会での評価 イ・中学校等への訪問回数 学校説明会の開催回数及び参加人数の増(27年度中学校訪問65校、参加人数917名) ウ・見学会等の実施状況 ・出前授業などの実施状況 ・地域行事等への参加状況 ・裏山の活用状況	ア・ホームページの更新回数60回。ただし、校長ブログを再開した。また、刀根山・里山活用プロジェクトのページを新設するなどコンテンツの充実を図る。メールマガジン発信回数(3月末現在)51回。(△) イ・豊能地区をはじめ、大阪市、吹田市、茨木市の中学校83校を訪問した(昨年比+22校)。学校説明会を昨年同様3回開催したが、参加者した中学生数は972名(昨年比+55名)。(○) ウ・地域の敬老会、豊中市成人式、公民館活動等にクラブが参加し協力した。地元のこども園や保育所を訪問したり、また、招いてクラブや特定の授業で活動したりした。今後は裏山での活動も含め、さらなる地域連携を推進していく。(○)
5 ICTによる校務の効率化	(1) 校務情報システムの積極的な活用 (2) 労働安全衛生管理体制の充実	ア・生徒の出席状況の日々入力。学習状況、健康管理に関する情報を教員間で共有する。 イ・業務の効率を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 ウ・安全衛生委員会の定期開催 毎月の職場巡視の実施	ア・教員のICT活用状況 イ・勤務時間以外の業務時間の減少 ・時間外月80時間以上の職員をなくす ウ・安全衛生委員会の毎月開催をめざす	ア・ICT機器を活用した効果的・効率的な授業を推進しており、83%の教員が電子黒板機能付プロジェクタをはじめとするICT機器を使って授業を行った[+17ポイント]。(◎) イ・月当たり80時間を超える勤務者のべ23名。長時間勤務の多い教職員には効率的に仕事を遂行するよう積極的に働きかけていく。(△) ・全校一斉休日日を水曜日に設定した。 ウ・安全衛生委員会を7回実施した。職場巡視については、産業医の執務の際に実施し、適切な助言を得た。(△)

## 府立刀根山高等学校

<p>6 学校経営推進費の活用</p>	<p>(1) 平成 28 年度 学校経営推進費事 業を活用する。</p>	<p>ア・地域や大学と連携し、裏山を活用したキャリア教育を推進することにより、生徒の「志」を高め、勤労観・職業観を育成する。</p> <p>イ・裏山に生息する動植物に直接触れ、大学教授等の専門家から指導を受けることにより、生徒の学習に対する興味・関心を高める。</p> <p>ウ・裏山の資源を活用し、これまで進めてきた環境教育や防災教育をさらに推進する。</p>	<p>ア・学習・進路指導の卒業前調査（3年生）の「進路実現のための自分の課題が見えた」等の回答の向上（27年度：70%）</p> <p>・学校教育自己診断「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」の向上（27年度：82%）</p> <p>イ・授業アンケート「授業に興味関心」肯定的回答 80%以上（27年度：77%）</p> <p>ウ・生徒アンケート（新規）「裏山を有効に活用できた」の回答 55%以上</p>	<p>ア・3年生「進路実現のための自分の課題が見えた」等 67% [-3ポイント]。(△)</p> <p>・学校教育自己診断「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」82% [±0]。(△)</p> <p>・公民館と連携し、里山体験（11月に見学と干柿作り、12月に門松作り、1月に春の七草狩りなど）を実施。(○)</p> <p>・近隣学校園と連携し、昆虫採集やドングリ拾いなどの自然体験を実施。(○)</p> <p>・地元の自然保護団体や野外活動指導グループと連携し、炊き出し、草木染、燻製作りを生徒が体験した。(○)</p> <p>・事業の初年度であり、ハード面での取組みが中心となり、ソフト面での取組みは不十分であったが、来年度は裏山を「人を育てる」拠点としてキャリア教育を推進していく。</p> <p>イ・授業アンケート「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答 75% [-2ポイント]。(△)</p> <p>・11月に神戸女学院大学（動物生態学）から教授1名と学生4名を招き、本校生11名が裏山に生息するハチの調査を行った。また、兵庫県立大学・人と自然の博物館（植物生態学）から2名の教員を招き、本校生9名が植生調査の方法を学んだ。(○)</p> <p>ウ・アンケートについては10月に実施したが、裏山の利用状況や要望を問うものであった。</p> <p>・年度末には1・2年生を対象に活用状況についてのアンケートを実施予定。</p>
-------------------------	--	---	--	---